

文化財を学ぼう



ふるさとの文化財を探検

7月14日・30日・8月3日の3日間、市内の小学生と保護者86人が参加して郷土の貴重な文化財を見学する「文化財たんけん隊」を開催しました。



古代ロマンを訪ねる

7月27日・8月9日・10日の3日間、「文化財ウォッチング」が開催されました。市内の小学生39人が参加し、土器作りや勾玉・クレヨンぞうがんづくり、野焼き、遺跡での発掘体験、串良歴史民俗資料室の見学などを行いました。

ぜひ、ご活用ください

市文化財センターでは、市内の貴重な文化財を紹介する「文化財出前授業」を無料で行っていきます。

ご希望の個人、団体の皆さんは、市文化財センター（☎0994-31-1167）までご連絡ください。

開催日時、場所、内容等は、相談により決定します。



▲4月18日、浜田小学校で行われた文化財出前授業の様子

象嵌装大刀 (ぞうがんそうたち)



「ラブヒコ」

鹿屋の史跡や遺物を紹介するために、古墳時代からやってきた男の子。



▲ハバキ部分のCT画像



▶実物のハバキ



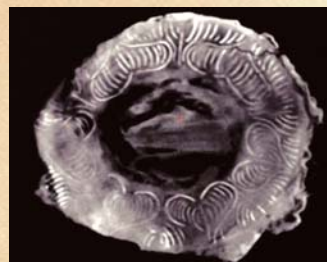
▶実物のツバ



▲出土時の象嵌装大刀



▲ツバ部分にほどこされたハート形の心葉文



▲ツバ部分のCT画像



▲象嵌装大刀再現レプリカ

※串良ふれあいセンター内歴史民俗資料室に展示しています。

鹿屋市吾平町の中尾地下式横穴墓群で発見された、今から約1,500年前の古墳時代の刀です。象嵌とは、異なる材質同士を嵌め込む技法のことです。この刀には、鉄に銀が嵌め込んであります。刀のツバとハバキに心葉文、ハバキの上部と柄頭の金具に2重半円文が施されていて、象嵌技法が施された出土品としては、県内で初めての発見となりました。また、ツバに心葉文を持つ刀は、全国でも16例目、九州では4例目と大変貴重な出土品です。象嵌装大刀を持っていた人については、実はまだ詳しく

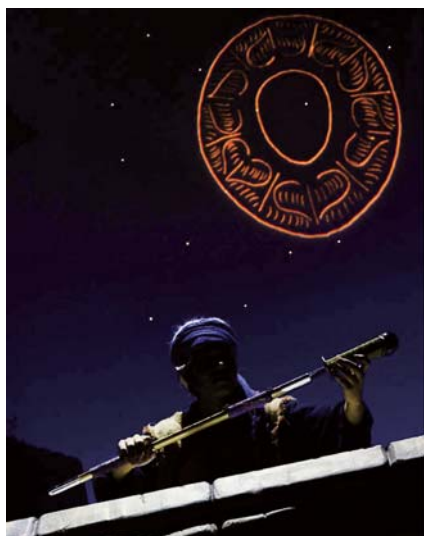
象嵌装大刀とは？

わかっていません。

象嵌装大刀は、鹿屋で作られたものではなく、朝鮮半島からの渡来品か大和地方で製作されたものが中央政権との交流により与えられたものであると考えられています。

忠実に再現された象嵌装大刀

材質や大きさだけでなく、製作方法まで忠実に再現したレプリカを製作しました。一見するとハートを思わせる心葉文は、中国の空想上の生物「鳳凰」を表現しています。



鹿屋市出身の松永太郎さんの演出による1500年前の大隅と奄美を舞台にした高校生ミュージカル「ヒメとヒコ」。劇中には、象嵌装大刀だけでなく勾玉や石棺など、鹿屋で発掘された貴重な文化財が登場します。

鹿屋市の歴史や文化財

知っていますか？

【問い合わせ】
市文化財センター
☎0994-31-1167

物・伝統的建造物群・文化的景観の6つの種類に分類されます。特に吾平町中尾地下式横穴墓群から出土した「象嵌装大刀」は、県内初の発見で注目を集めています。他にも、市内には、県内でも非常に貴重である県指定文化財が4つあります。また、市指定文化財が98件（有形文化財6件、民俗文化財50件、記念物42件）あり、市民共通の財産である文化財を次代に継承していくことが、今を生きる私たちの責務となっています。



▲①短甲・衝角付冑 (串良歴史民俗資料室)



▲③笠野原土持堀の深井戸 (串良町細山田)

①昭和41年指定。今から約1500年前の古墳時代の「短いよろい」と「かぶと」。県内でもしっかりと形を残したものは他に例がない。

②昭和43年指定。1751年作で鈴持ち田の神舞型では最古とされる。

鹿屋市内の鹿児島県指定文化財

③昭和57年指定。深さ64mで牛馬にロープを引かせ、つるべで水を汲んでいた。

④昭和37年指定。棒踊り、かぎ引き、太郎・次郎が滑稽な会話で行う田打ちが行われる神事。毎年2月第3日曜日に行われる。



▲②野里の田の神像 (野里町)



▲④山宮神社春祭りに伴う芸能 (串良町細山田)

文化財とは？

鹿屋市は、古くは2万年前の旧石器時代に始まり、縄文・弥生・古墳時代へと、時代ごとに私たちの祖先の生活の跡などが数多く見つかっていきます。また中世から近世にかけては、稲作の豊穰を願う田の神像、戦乱の世を思い起こさ

せる五輪塔やその舞台となった山城、棒踊りや八月踊りなどの民俗芸能も残されています。このように先人たちの生きてきた証となるものなどが文化財です。文化財は、有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念